

2026 年度 2 章 セルフ学習問題

()に入る最も適切な語句を解答用紙に記入してください。

- Q1. 糖尿病は()作用不足による慢性高血糖を主徴とする疾患群である。
- Q2. 糖尿病の発症には遺伝因子と()因子が関与する。
- Q3. 糖尿病では細小血管障害だけでなく()も促進される。
- Q4. インスリンの三大標的臓器は肝臓、骨格筋、()組織である。
- Q5-7. 糖尿病では、肝臓・骨格筋・脂肪組織でそれぞれどのような変化が起こるか。
- Q5. 肝臓ではインスリン作用不足により糖新生と()分解が亢進する。
- Q6. 骨格筋では GLUT4 の細胞質から()への移行が障害される。
- Q7. 脂肪組織では脂肪分解が亢進し、遊離脂肪酸と()が放出される。
- Q8. 脳は遊離脂肪酸を利用できないため、絶食時にも血中()濃度は一定に保たれる。
- Q9. 長時間の絶食時には肝臓で()が亢進し血糖を維持する。
- Q10. 糖新生の基質には乳酸、アミノ酸、()がある。
- Q11. 2 型糖尿病では空腹時血糖上昇の原因として、肝臓からの()産生が増加する。
- Q12. 食後高血糖には初期()分泌低下が関与する。
- Q13. 高血糖がさらに高血糖を悪化させる現象を()という。
- Q14. インスリン抵抗性とはインスリンの()作用が十分発揮されない状態である。
- Q15. 肥満によるインスリン抵抗性の原因の一つとして()毒性がある

- Q16. アディポネクチンはインスリン()を増強する。
- Q17. 肥満では脂肪組織に慢性的な()が生じる。
- Q18. 身体活動量の低下はインスリン()性を悪化させる。
- Q19. 発症初期には代償的に高()血症となる。
- Q20. 糖尿病の進行に伴い最終的には膵()細胞機能が低下する。
- Q21. 日本人は欧米人と比べて膵 β 細胞()が低い。
- Q22. インスリンは ATGL や HSL といった()の活性を抑制する作用がある。
- Q23. 2 型糖尿病では高トリグリセリド血症と低()コレステロール血症を認めやすい。
- Q24. 動脈硬化惹起性の高い small dense()が増加する。
- Q25.()コレステロールは善玉コレステロールとよばれる。
- Q26. 肥満症とは、肥満に起因あるいは関連する健康障害を合併するか、その合併が予測される場合で、医学的に()を必要とする病態である。
- Q27. 内臓脂肪型肥満は、腹部 CT で内臓脂肪面積() cm^2 以上を認めた場合に診断される。
- Q28. 日本では BMI() kg/m^2 以上を肥満と定義する。
- Q29. BMI $35\text{kg}/\text{m}^2$ 以上は()肥満と呼ばれる。
- Q30. 肥満症治療の最終目標は健康()の延伸である。